

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立萩中小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・理科用語の定着を図るために、ICT を活用し、実験器具等を楽しく覚える時間を設定したことで、児童が主体的に活動し、知識・技能の向上につながった。
- ・児童自らが考え、調べる活動を計画したことで、主体的に活動に取り組んでいた。
- ・学年の系統性を考えて授業を行ったことで、資質、能力の向上が見られた。
- ・日常生活と理科の学習との関連付けを意識して授業を行ったことで、理科の学習の必要性を改めて実感する児童がいた。

(2) 課題

- ・授業で行った実験や観察で得た知識が定着していない。
- ・「物質・エネルギー」「生命・地球」の両方の領域に課題がある。
- ・言語活動の充実に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値より↓		
第5学年	目標値より↓	目標値と同程度 (第4学年時)	
第6学年	目標値より↓	目標値より↓ (第5学年時)	目標値より↓ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○基本的な知識・技能が身に付いていない。 ○器具や機器などを正しく扱えていない。 ○問題解決の過程や得られた結果を分かりやすく記録できていない。	○自然事象について、差異点や共通点を基に、問題を見いだせていない。 ○自然事象について、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想することができてない。	○事物・現象にすすんで関わり、他者と関わりながら問題解決できていない。 ○自然事象について学んだことを学習や生活に生かそうとしていない。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○基本的な知識・技能が身に付いていない。 ○器具や機器などを正しく扱えていない。 ○問題解決の過程や得られた結果を分かりやすく記録できていない。	○自然事象について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想できていない。 ○自然事象について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察することができていない。	○事物・現象にすすんで関わり、他者と関わりながら問題解決できていない。 ○自然事象について学んだことを学習や生活に生かそうとしていない。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○基本的な知識・技能の定着のために、日常的に取り組む課題を設定する。 ○器具や機器などを正しく扱えるように、一人一実験で取り組める活動を設定する。 ○問題解決の過程や得られた結果を分かりやすく記録するために、手本や参考になる提示物・掲示物を用意する。	○差異点や共通点を基に、問題を見いだすために、「比べて」物事を捉える活動を取り入れて指導する。 ○既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想するために、「関係付けて」考えを表現するように指導する。	○事物・現象にすすんで関わり、他者と関わりながら問題解決するために、児童の興味・関心を引き出す授業づくりを心掛ける。 ○自然事象について学んだことを学習や生活に生かすために、学習したことを振り返る時間を設定したり、科学と日常生活をつなぐ時間を設定したりする。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○基本的な知識・技能の定着のために、日常的に取り組む課題を設定する。 ○器具や機器などを正しく扱えるように、一人一実験で取り組める活動を設定する。 ○問題解決の過程や得られた結果を分かりやすく記録するために、手本や参考になる提示物・掲示物を用意する。	○自然事象について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想するために、「条件を制御して」計画を立てるように指導する。 ○自然事象について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察するために、「多面的に」物事を捉えて考えるように指導する。	○事物・現象にすすんで関わり、他者と関わりながら問題解決するために、児童の興味・関心を引き出す授業づくりを心掛ける。 ○自然事象について学んだことを学習や生活に生かすために、学習したことを振り返る時間を設定したり、科学と日常生活をつなぐ時間を設定したりする。